

回顧 LOOK BACK熊本
写真で振り返る2013



▲9月27日、九州産交ツーリズムが企画した2泊3日のクルーズで、約400人を乗せ熊本港を出港する「にっぽん丸」(2万2472トン)

今年には熊本港と八代港の両港が、「物流」「人流」の面で大きな前進を見せた年となった。
熊本港は、昨年10月にガントリークレーンが稼動し国際コンテナ航路の釜山便が週2便に増便、今年1月から7月までの取扱量は44%増と大幅な伸びを示している。また、今年9月と10月には同港に初めて、日本を代表するクルーズ船が相次いで入港。「熊本港クルーズ新時代」の扉を開いた。今後、シニア人気が高い国内と、外国のクルーズ船誘致に期待がかかる。
八代港は、国際コンテナ航路の開設が相次いだ。今年6月に釜山便が週3便に、7月には大連、8月に上海と相次いで中国航路が開通され、この1年で週5便体制を整えている。今後は県南のほか、鹿児島、宮崎などから集荷した木材を中心に輸送量の拡大を図り、県外の国際貿易港とのポートセールス競争に備える。



▲コンテナを積み下ろす熊本港のガントリークレーン。この設置で作業時間も短縮されている

八代に中国航路、熊本はクルーズ船も

熊本港と八代港、「物流」「人流」で前進



▲7月23日、八代港に入港する中国・民生輪船のコンテナ船「ミリアド号」(5403トン)。県内初の中国定期コンテナ航路となった



▲4月、同構想推進組織設立発起人会には県南15市町村の首長が顔を揃えた。左から藤本一臣氷川町長、田中信孝人吉市長、蒲島知事、福島和敏八代市長(当時)、宮本勝彬水俣市長、竹崎一成芦北町長

県は今年から、県南振興の起爆剤と位置付ける「県南フードバレー構想」の具体化へ動きだした。同地域の豊かな食材を生かし、食品関連企業の誘致を図るなど、「食」で県南の活性化を図るのが狙い。熊本市の政令市移行後の地域戦略の一つでもある。7月には推進協議会(会長・小野泰輔副知事)が発足し県南15市町村から約450人が集まり、官民の連携を確認した。

さらに、「食」関連では新規事業として企業による農業参入が増え、外食や自社商品の原材料確保のために参入するケースも相次いでいる。県によると、12年度末までの参入件数は71件。業種や目的にも広がりを見せているようだ。

天草市の自動車部品製造、熊本部品(株)(大屋善樹社長)は11年からベビーリーフを生産、今年単年度黒字を見込む。和水町の納豆・豆腐製造、(株)丸美屋(東健社長)は、トウモロコシや大豆などを生産する。



▲熊本部品が生産するベビーリーフ(天草市新和町の同社工場)

「県南フードバレー構想」が始動

企業による農業参入も増加

ハトの被害にお困りの方へ



熊本のハト対策・駆除なら、
BIRD PRO バードプロ
Powered by 有限会社ビルメイト

5つの施工法で鳥害対策の**BIRD PRO**がハト被害を解決!

ハトの被害レベルに応じ、お客様のご要望やご予算を踏まえ最善の解決法をご提案します。

総合鳥害対策のコンサルタント企業 **バードプロ**

運営会社 **有限会社ビルメイト** 〒861-8001 熊本市北区武蔵ヶ丘9-2-58
TEL.096-337-6757 FAX.096-337-6774

謹賀新年

本年も変わらぬご愛顧の程、よろしくお願い申し上げます



—新聞・テレビでは知れない情報満載—
熊本唯一の月刊経済誌 **くまもと経済**

定期購読受付中

年間(12回)購読料 19,000円
1冊 1,840円 県内書店・コンビニで販売

発行 (株)地域情報センター

〒860-8552 熊本市中央区紺屋町1-2-2 TEL096-359-7777

http://www.kumamoto-keizai.co.jp